

# 『茶色本』研究 〈序〉

丸田 健 (Ken Maruta)

奈良大学

ヴィトゲンシュタインの『茶色本』は、出版された彼の作品群の中でも比較的有名なテキストである。ところがヴィトゲンシュタイン研究において、その作品は彼の哲学的発展史の一段階として言及はされるものの、それ自体の哲学的ないし解釈的意義があるものとしてはほとんど掘り下げられないことがない。つまりそれは、いわば日陰のテキストとなっている。例えば H.-J. Glock の *A Wittgenstein Dictionary* にある、コンパクトな「知的伝記の素描」の章では、同時期の口述本という点で並列されがちな『青色本』については、「彼の著述の中でもっとも近づきやすいもの」というポジティブな説明（その理由は、それは『論考』のようにアフォリズム的でなく、『探究』のように切り詰められておらず、つまりは論述的 (discursive) であるから、というものである）が与えられているのに対し、翌年に口述された『茶色本』については、架空の言語的諸実践について考察するという「言語ゲーム・メソッド」が「うんざりするほど (ad nauseam)」用いられている、という紹介であり、形式は『青色本』に似ているにも拘らず、かなりネガティブで素っ気ない触れ方である (Glock 1996: 23)。『茶色本』に対する否定的な眼差しの事例は他の論者にも見出しうるが、そういった眼差しは、そもそもヴィトゲンシュタイン本人の態度によって助長されうるものかもしれない。というのも『茶色本』の口述から暫くして、彼はそれをドイツ語に訳す試みを始めたものの、その試みを「無意味」という言葉と共に断念したからである。そしてそれに代わって、現在の『探究』につながる原稿 MS142 が用意されたのだった。それはすなわち『探究』の原初版であり、それによって、ドイツ語訳とともに『茶色本』自体が乗り越えられた、という認識が研究者間で作られているのでないかと疑われる。そういったことが、『茶色本』を日陰のテキストとしていると思われるのである。

しかし私は、『茶色本』を見直すことで、『探究』理解を有意義に深められる可能性があるのではないかと考えている。だが目指すべき『茶色本』の見直しのためには、基礎的準備として、『茶色本』そのものだけでなく、関連するテキストの資料的 (再) 検討が必要である。関連テキストとして重要なのは、まずは上述の『茶色本』のドイツ語訳の試みである。これは MS115 の後半部分だが、リーズによって「一哲学考究 (*Eine Philosophische Betrachtung*, EPB)」というタイトルを付けられているものである。A. Pichler は『茶色本』をその関連テキストと一体的に捉える視点を持っており、それらをまとめて『茶色本』複合体 (*der Braune Buch-Komplex*) と呼んでいる。彼がそこに含めるテキストには、『茶色本』と EPB に加え、MS141 がある。しかしフォン・ヴリクトの “Wittgenstein Papers” を参照すると、さらに MS150 も『茶色本』と関連がありそうである (von Wright 1993: 497)。また、アンブローズ、スキナーのそれぞれが残した、『茶色本』関連の原稿もある。さらに加えて『茶色本』の見直しのためには、

日本の場合、その邦訳も視野に入れることが有益かもしれない。というのも、わが国の場合、邦訳が『茶色本』理解の導入ないし基盤になっている可能性もあるからである。

MS141、MS150については制作時期などの文献学的情報に不明点があったり、またアンブローズ、スキナー文書については情報が不足していたりして、それらから研究の何らかの確たる糸口を掴むことは現在のところ難しい。本発表では、『茶色本』、EPB、邦訳の検討から得られる、『茶色本』理解の深化につながる若干の考察例を紹介したい。一つは、言語理解と音楽理解の類似性という、ヴィトゲンシュタイン哲学の重要なテーマについて、邦訳が正しい理解を伝えていないのではないかという懸念に関する考察である。もう一つは、『茶色本』の二部構成に触れる考察である。最後は、EPBを参照することで、『茶色本』の第一部と第二部のつながりがあきらかになるという考察である。以上の考察はサンプルであり、それらを更なる考察と関連付けながら『茶色本』研究を『探究』理解につなげる努力が、これから先、必要になるだろう。

#### 参考文献

- Glock, H.-J. (1996) *A Wittgenstein Dictionary*, Blackwell.
- Pichler, A. (2004) *Wittgenstein's Philosophische Untersuchungen: Vom Buch zum Album*, Rodopi.
- von Wright, H. G. (1993 [1969]) "The Wittgenstein Papers" in J. C. Klagge and A. Nordman eds., *Ludwig Wittgenstein: Philosophical Occasions 1912-1951*, Hackett, pp.480-506. (「ウィトゲンシュタインの遺稿」飯田隆訳、『ウィトゲンシュタイン読本』所収、法政大学出版局、1995年、335-374頁。)
- Wittgenstein, L. (1958) *Brown Book*, in *Preliminary Studies for the "Philosophical Investigations"*, Generally Known as *The Blue and Brown Books*, Bail Blackwell, pp.77-185. (「茶色本」大森荘蔵訳、『ウィトゲンシュタイン全集6』所収、大修館、1975年、131-297頁。)
- (1984 [1969]) *Eine Philosophische Betrachtung*, in *Werkausgabe Band 5*, Hg. von Rush Rhees, Suhrkamp, S.117 -237.
- (2000) *Wittgenstein's Nachlass, The Bergen Electric Edition*, The Wittgenstein Archives at the University of Bergen (ed.), Oxford University Press.
- *Wittgenstein Source*, Bergen Nachlass Edition ([www.wittgensteinsource.org](http://www.wittgensteinsource.org))

本研究は JSPS 科研費 JP25K03558 の助成を受けています。